２０２２年10月14日　高３　トップ＆ハイレベル古文〜読解編〜

解答・解説　11ページ

第五講　問一②

誤　お前〔あなた〕を遣わして、恋文を渡した人〔女房〕は、まだ宮中にいると聞いているが

↓

正　お前〔あなた〕を遣わして、恋文を渡した人〔女房〕は、まだ宮中にいると聞いているか

解答・解説　14ページ

第六講　『とはずがたり』〔現代語訳〕

５行目

誤　〜花と言うならば、桜にたとえても、（前斎宮ご自身は）人目はいかがなものか〔＝人目には自分の姿が醜く映るのではないか〕と誤解をなさり、（桜の花を隠す）〜

↓

正　〜花と言うならば、桜にたとえても、はた目にはどうであろうか（いや、桜にたとえてもおかしくはない）と見間違われ（るほど美しく）、（桜の花を隠す）〜

６行目後半〜７行目

誤　どのようにしようかしらと思っているにちがいない

↓

正　どうしようかしらと思うにちがいない

７行目後半〜８行目

誤　お心の内は、（前斎宮にとって）早くもどんなお悩みの種（になること）だろうかと、よそながらも（前斎宮のことが）お気の毒に思われなさった。

↓

正　お心の内は、（前斎宮が）早くもどんなお悩みの種（になっている）だろうかと、よそながらも（前斎宮のことが）お気の毒に思われなされた。

第七講　『讃岐典侍日記』　チャプター３　８分６秒前後

「おぼえさせたまへ」の解釈

誤　「おぼえ」＝自然に思われる、感じる
「させ」＝使役
「たまへ」＝尊敬
鳥羽天皇が私に自然にそう感じさせなさる＝私が鳥羽天皇のことをそう（＝いじらしく恐れ多く）思い申し上げる

←

正　「おぼえ」＝他人から思われる
「させ」＝尊敬
「たまへ」＝尊敬
鳥羽天皇が私からそう思われなさる＝私が鳥羽天皇のことをそう（＝いじらしく恐れ多く）思い申し上げる

第八講　『源氏物語』〈幻〉　チャプター２　講義・板書　７分20秒前後

誤　今なん限りとなしたまはねど

←

正　今なん限りとしなしたまはねど